

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年8月25日

【評価実施概要】

事業所番号	2674100124		
法人名	医療法人社団洛和会		
事業所名	洛和グループホーム勤修		
所在地	京都市山科区勤修寺福岡町312スクエア103 (電話) 075-591-1452		
評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年7月23日	評価確定日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(平成19年 6 月 10 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 10 年 4 月 20 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	5 人
職員数	9 人	常勤 4 人, 非常勤 5 人, 常勤換算	8.0

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	4 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 200,000円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,166円	

(4)利用者の概要(6月 10日現在)

利用者人数	5 名	男性	0 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高	93 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	音羽病院・音羽クリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療、介護、健康保育、教育研究の総合ネットワークとして幅広い地域で展開する大型法人を母体に持ち、京都市の中でも早くに開設されたこのグループホームは、閑静な住宅街の中に立地しています。マンションの1階部分にホームがあり、スペース的に難しい面もありますが、ご飯の炊ける匂いや洗い物の音、会話、笑い声が自然に聞こえる空間となっており、生活感を上手く活用しながら温かい雰囲気の中で入居者5名がゆったりと過ごされています。職員は入れ替わりが少なく、馴染みの関係でのケアが実現されており、センター方式や日常の会話により一人ひとりを把握しながら、その人らしい暮らしを支援しています。また、法人のネットワークが十分に活かされており、書類関係、職員の研修体制、会議を通しての連携がしっかりとられています。医療関係においても24時間対応可能な医師の確保や訪問看護ステーションとの連携があり、安心した体制が整えられています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善事項である、書類、薬の保管場所について職員と話し合い、薬は見えないところ、書類は鍵の掛かるところに保管されています。また、金銭出納帳についても個別に作成して改善されています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価についても職員と会議で話し合い、サービスの向上に努めている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の役員、民生委員、本人、家族が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回開催されており、まずグループホームを知ってもらうことから話をしています。情報交換を通して、ホームの近くにある災害時の避難場所を教えてもらったり、今まで知り得なかった情報を得る良い機会にしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に苦情箱を設置したり、食事会や運営推進会議への参加時に意見を聞く機会を設けています。言いたい事が言えない気持ちを推し量り、年に2回法人の取り組みとして家族アンケートが実施されています。結果については職員間で話し合われています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の運動会や地藏盆、お祭りに参加しています。散歩時のあいさつや声掛けを通して地域の方と話す機会を増やしています。今年度は地域の防災訓練等さらに地域活動に参加される予定です。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を、玄関に掲示している。地域の一員としてその人らしく暮らしていける事を目標にしており、ホームに来てもらい、ホームを知ってもらうようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアや会議、カンファレンスを通して理念の実践に向けた話し合いをしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や地蔵盆、お祭りに参加している。散歩時のあいさつや声掛けを通して地域の方と話す機会を増やしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価での改善事項、書類、薬の保管場所の変更、金銭出納帳を個別にする事など、職員間で話し合われ、改善されている。今回の自己評価についても職員と会議で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の役員、民生委員、本人、家族が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回開催されている。まずグループホームを知ってもらう事から話をしている。情報の共有を通して、ホームの近くにある災害時の避難場所を教えてもらったり、今まで知り得なかった情報を得る良い機会にしている。		

洛和グループホーム勸修

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村との連携は法人を通して実施されている。	○	今後ホームとして、地域運営推進会議に出席してもらえるように働きかける等、ホームからの積極的な働き掛けも期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族がホームに来られた際や電話にて入居者の日頃の暮らしぶりや行事の報告をしている。	○	グループホーム便りの発行の検討や入居者別の最近の様子や、行事予定、行事報告を書面にて、金銭報告とともに伝える事が期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情箱を設置したり、食事会や運営推進会議への参加時に意見を聞く機会を設けている。言いたい事が言えない気持ちを押し量り、年に2回法人の取り組みとして家族アンケートを実施している。結果については職員間で話し合われる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要に応じての法人内異動はあるが、異動、離職者も少なく、馴染みの関係づくりが出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画が立てられており、新人、現任研修が実施されている。また、随時、外部研修にも参加している。研修受講後は報告書を作成し、会議にて資料を配布してポイント説明をして職員間で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、研修に参加したり、懇親会で交流を図っている。また、同地域内に同法人のグループホームがあり、行事を一緒に行ったりしながら意見交換をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前の面接等にて情報収集をしたり、入居後は出来るだけコミュニケーションをとったり、職員、入居者になるべく早く自然に馴染めるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者それぞれの得意分野より、様々な情報や昔の事を職員は教えてもらいながら、一緒に過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用して、家族からの情報を得たり、日々のコミュニケーションを通して把握する事に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントして、長期目標、短期目標を掲げたケアプランが作成されており、毎月のカンファレンスにて職員の意見交換をし、プランに反映している。また、難しい面があるが本人を交えたカンファレンスを試みている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは見直しが必要になった場合は直ちに見直しをしており、基本的には3ヶ月に1回プランの評価をカンファレンスにて行い、見直しされている。		

洛和グループホーム勸修

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個別外出で、買物や美容院へ行ったり、外泊の支援がされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と相談して、主治医を決めている。地域の医療機関の医師による往診が月に2回あり、緊急時には、24時間連絡体制が可能である。また、訪問看護ステーションとの連携もある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだターミナルの例ははないが、法人としてのターミナル指針については家族の同意を得ており、入居時に意志を確認している。変化していく家族の意向を把握しつつ、主治医、看護師、職員と話し合いを持ちながらホームでのターミナルを考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	基本的に丁寧語で話されているが場面に応じて馴染みの言葉使ったりしながら対応している。また、入居者の個人情報は鍵付ロッカーで保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、就寝時間も自由であり、一人ひとりのペースを尊重し、出来るだけ意向に合わせたケアがされている。		

洛和グループホーム勸修

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に調理の準備や配膳、後片づけをしている。食事は新鮮なものを取り入れたり、食べやすさを考えて工夫しながら食事を楽しいものとしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望や意向を大切にしながら、毎日の入浴や体調に合わせた入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式により生活暦を把握している。毎日の体操や、食事、掃除を通して役割を見出したり、おやつ作りや七夕の笹飾り、うちわ作りなどの物づくり、散歩や買い物を通して楽しみごとを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩、花の水やり、庭の掃除に出られている。年に2回のお食事会や花見や紅葉狩りなど季節毎の行事も実施されている。	○	歩行が困難な場合でも、戸外へ出る事を積極的に支援したり、少しの時間でも日常的に散歩する事が期待される。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、消防署指導の下防災訓練を実施している。また、2ヶ月に1回ホーム独自の訓練を法人の取り組みとして実施している。また、地域の防災訓練への参加依頼をしたり、隣にある会社へ、災害の際の協力をお願いしている。		

洛和グループホーム勸修

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量はチェック表にて毎日記録しており、水分摂取量についても十分に注意をしている。栄養バランスが考えられた献立表を参考にされている。今後、法人栄養士に、献立をチェックしてもらい、アドバイスをもらう予定である。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	マンションの1階部分にホームがあり、スペース的に難しい面もあるが、ご飯の炊ける匂いや洗い物の音、会話、笑い声が自然に聞こえる空間となっており、生活感を上手く活用しながら暮らしの場としている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物品の持込が自由であり、居心地良く過ごしてもらえるように支援している。その方にあった居室づくりがされている。		